

【事業報告】

I 畜産経営の安定と技術の向上に係る支援及び畜産への理解醸成を図る事業

1 畜産経営を支援する事業

(1) 畜産経営指導体制円滑化推進事業

(補助:茨城県、継続) 公益

(補助:茨城県、継続) 収益

ア 畜産経営改善技術指導事業

安定的な畜産経営を推進するため、畜産コンサルタント職員を 5 名設置し、経営感覚に優れた畜産経営体の育成を支援しました。

イ 家畜改良支援事業

本県の優秀な種畜の血統の保持と能力向上を図り、子豚登記及び種豚登録を推進しました。
また、肉豚経営安定交付金制度及び肉用牛肥育経営安定交付金制度に係る生産者への支援等を推進しました。

ウ 畜産協会組織強化事業

畜産情勢の変動に対応した指導支援を実施するため、常勤役員及び畜産アドバイザーを設置し、畜産協会の組織執行体制の強化を図りました。

(2) 地域畜産総合支援体制整備事業

(受託:茨城県、継続) 公益

県総合計画に基づく儲かる経営体の育成を重点的に推進するため、個別経営指導の実施や、それらに対応する指導者の育成を実施しました。

ア 事業推進検討会の開催

対象農家の選定や支援内容の検討など、県関係機関との具体的な調整を行う検討会を開催しました。

- ・ 令和 6 年 7 月 29 日、県畜産センター(石岡市)、出席者 12 名

イ 畜産経営指導者育成セミナーの開催

畜産農家に対する生産技術・経営管理の両面から支援指導できる人材を育成するため、指導者等育成セミナーを開催しました。

- ・ 畜産経営講座(畜産簿記・畜産税務編)

令和 6 年 8 月 29 日～30 日、県畜産センター研修室、参加者延べ 28 名

講師:にしやまゆみこ税理士事務所 西山 由美子 氏

- ・ 畜産経営講座(養豚経営編)

令和 6 年 12 月 20 日、県畜産センター研修室、参加者延べ 28 名

講師:(有)稲波ファーム 鹿熊 修 氏

ウ 個別経営指導の実施

事業推進検討会において選定した経営体について、総括畜産コンサルタント、畜産コンサルタント、外部専門家等を活用し、経営診断改善指導・生産技術指導を行いました。

区 分	経営診断改善指導	生産技術指導	計
酪 農	2 件	4 件	6 件
肉用牛	3 件	8 件	11 件
養 豚	5 件	3 件	8 件
養 鶏	-	1 件	1 件
合 計	10 件	16 件	26 件

エ 畜産関係の情報提供及び指導用機器の整備

畜産経営に関する情報提供と経営支援のための機器整備を行いました。

- ・ 年間ホームページアクセス数:約 54 万アクセス「いばらきの畜産情報ホームページ」

(3) 畜産特別資金等推進指導事業 (補助:中央畜産会、継続) 収益

支援推進協議会を開催し、畜産特別資金等推進指導事業内容と畜産リノベ資金及び酪肉支援資金について情報共有を図りました。

- ・ 令和 7 年 2 月 14 日、茨城県畜産会館(水戸市)、参加者:11 名(協議会員)

(4) 貸付事業指導等事業 (受託:畜産近代化リース協会、継続) 収益

畜産近代化リース協会より貸付された機械施設の効率的な利用を図るため、現地確認や管理状況についての調査及び指導を行いました。

- ・ 管理状況調査:2 経営体(哺乳ロボット)
- ・ 新規開拓調査:200 経営体

2 畜産技術の向上や生産基盤の整備を図る事業

(1) 良質堆肥広域流通促進事業 (補助:茨城県、継続) 公益

畜産農家と耕種農家の連携を強化し、堆肥生産・利用双方の情報収集や交流を進めました。また、良質堆肥の生産及び広域流通を推進することにより、資源循環型農業を促進し農畜産業の安定的発展を図りました。

ア 堆肥利用集団の組織化支援及び広域流通促進

(ア) 堆肥コーディネーターを設置し、堆肥の需給情報を収集することにより堆肥の流通・利用の促進を図りました。

- ・ 堆肥に関する問合せ件数:28 件

(イ) 良質堆肥の生産と利用拡大を図るため勉強会を開催しました。

- ・ 令和 7 年 2 月 28 日、県農業総合センター(笠間市)、参加者 52 名

(ウ) 堆肥の広域流通を促進するため、堆肥生産者名簿を作成し、耕種農家に堆肥生産者情報を提供しました。

(エ) 県や JA 等の協力を得て、堆肥需要調査を実施すると共に特殊肥料届出を推進しました。

- ・ 堆肥需要調査:25 件
- ・ 特殊肥料の届出:7 件

(2) 地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業 (補助: 農畜産業振興機構、継続) 公益

肉用牛の生産基盤を強化するため、遺伝的多様性に配慮した肉用牛農家が行う優良繁殖雌牛の導入及び増頭に資する施設整備の取組に助成しました。

- ・ 遺伝的多様性に配慮した改良基盤確保: 1 集団、1 頭
- ・ 増頭に資する施設整備 (簡易牛舎) : 2 集団、2 施設

(3) 銘柄畜産物ブランド支援事業 (補助: 茨城県、継続) 公益

(補助: 茨城県 受託: 茨城県常陸牛振興協会、継続) 収益

ア 県産銘柄豚

県内養豚農家の種豚の能力向上を推進するため、県畜産センター養豚研究所で造成された系統豚「ローズD-1」による種豚の更新に対し助成しました。

- ・ ローズD-1導入: 21 戸、40 頭

イ 常陸牛

銘柄和牛「常陸牛」の知名度向上と消費拡大を図るため、インターネットを活用した情報発信を行いました。また、常陸牛輸出販売促進員の活動を支援し、東南アジア等を中心に輸出を促進しました。

- ・ 常陸牛ホームページを活用した広報宣伝・運営管理
- ・ 指定店、推奨店の情報やイベント情報の発信
- ・ 販路拡大のための現地フェアの開催、現地業者へのフォローアップ及びカッティングセミナーの開催
- ・ 海外販売推奨店: 55店舗 (ベトナム23、タイ15、米国2、シンガポール4、フィリピン11)

(4) 畜産共進会開催事業 (補助: 茨城県、継続) 収益

家畜の改良増殖を促進するため、広域的な共進会 (関東肉牛枝肉共進会) について助成しました。

(5) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業 (機械導入事業) (受託: 中央畜産会、継続) 収益

畜産クラスター協議会が定める畜産クラスター計画等に基づき、地域の収益性向上等に必要な機械器具等 (リース・購入) の導入を図るため、事業の推進業務、及び機械導入状況調査に係る機械の現地確認を 2 件実施しました。

要 望			採 択		
協議会数	経営体数	機械数	協議会数	経営体数	機械数
11	22	41	11	22	41

(6) ICT 化等機械装置等導入事業 (畜産 ICT) (受託: 中央畜産会、継続) 収益

県内の畜産 ICT 応援会議が地域酪農、肉用牛経営の労働負担軽減に資する省力化機械装置の導入の円滑な推進を図るため、推進指導、現地調査及び取りまとめ等を行いました。

要 望			採 択		
協議会数	経営体数	機械数	協議会数	経営体数	機械数
2	6	8	2	6	8

(7) 酪農労働省力化対策事業(楽酪 GO)

(受託:中央畜産会、継続) 収益

県内の楽酪応援会議が地域酪農の労働負担軽減に資する省力化機械装置の導入と一体的な施設の補改修・増築を推進するうえで、事業の円滑な推進を図るため、普及推進等を行いました。

要 望			採 択		
協議会数	経営体数	機械数	協議会数	経営体数	機械数
1	2	3	1	1	1

(8) 養豚経営安定対策補完事業

(補助:農畜産業振興機構、継続) 収益

産子数の向上や配合飼料の節減など生産コストの低減を図るため、一代雑種雌豚の導入に対し補助しました。

- ・ 種豚導入:3 集団、51 頭

(9) ブランド豚肉生産拡大事業

(受託:茨城県、継続) 収益

茨城県が造成したデュロック種系統豚ローズD-1を活用した銘柄豚肉「常陸の輝き」について、生産拡大や品質の安定化、流通・販売の円滑化を図るため、専門職員を設置し、銘柄推進組織の運営や販売PR活動を行いました。

ア 協議会の開催

常陸の輝き推進協議会において、事業計画や生産基準の運用について検討や、生産者部会を開催し、意見交換を行いました。

イ 生産対策

品質維持のため、生産者各個の肉質分析と食味評価を実施し、新たな生産希望者に対し個別訪問を行いました。

ウ 流通・販売PR活動

販路開拓のための店舗訪問、指定店キャンペーン、おいしさに関する評価項目の調査を実施しました。

- ・ 店舗訪問:7 件
- ・ キャンペーン参加店舗:24 店舗

(10) 地域畜産支援指導等体制強化事業

(受託:中央畜産会、継続) 収益

生産者向けの研修会を開催すると共に、職員のスキルアップのため研修会へ参加、資料収集及び県・関係団体との連携強化のための打合せ等に参加しました。また生産者等からの相談に応じるため、総括畜産コンサルタント3名、畜産コンサルタント2名により畜産経営相談窓口を設置しました。

- ・ 肉用牛研修会 :令和7年3月7日、全農いばらき農機総合センター(茨城町)、参加者 94 名
- ・ 養豚プチセミナー:令和7年2月20日、鉾田合同庁舎(鉾田市)、参加者 62 名

(11)家畜登録推進事業 (単独、継続) 収益

県、市町村及び関係団体の協力を得て種豚登録、子豚登記を積極的に実施すると共に、系統豚の認定規定に関する証明と豚人工授精用精液の販売を行いました。

- ・ 種豚登録:302 件 ・ 子豚登記:531 件 ・ 一代雑種血統証明:132 件
- ・ 豚人工授精用精液販売:3,745 本

(12)畜産振興対策事業 (単独、継続) 収益

県及び国等に対する畜産行政施策の要請活動や、各種共進会等への協力・支援、及びその他畜産振興に係る事業を行いました。

ア 畜政活動

県内の畜産関係団体と連携を図りながら、畜産行政施策に係る提言や、畜産施策の要請活動を行いました。

イ 共進会支援

各市町村及び畜産関係団体が開催する各種共進会等を支援しました。

ウ 事業円滑化推進

円滑な事業推進を図るため、関係機関及び畜産関係団体との調整・協議を行いました。

エ ホームページ等・イベント等での情報提供及び宣伝

本県の生産者等や一般消費者へ向けた畜産に関する各種情報発信(SNS 等)や、イベント等において畜産への理解醸成と普及宣伝活動を行いました。

- ・ ちくさんフードコレクション:令和6年9月28日～29日、三の丸庁舎広場(水戸市)
- ・ 地方競馬において本県畜産物のPR等:船橋競馬場、大井競馬場、他HP等

(13)畜産大賞選定事業 (単独、継続) 収益

「畜産大賞」審査委員会を開催し、本県の畜産振興に特に貢献のあった個人(2名)を選定しました。(令和7年1月28日)

・ 特別功労賞

鴨川 隆計 氏 (水戸市) 主な功績:常陸牛のブランド力向上、及び生産振興

斉藤 功 氏 (下妻市) 主な功績:常陸牛のブランド力向上、及び生産振興

(14)優良繁殖雌牛更新加速化事業 (受託:全国肉用牛振興基金協会、新規) 収益

肉用牛の生産基盤強化のため、高齢の繁殖雌牛から優良な若い繁殖雌牛に更新するための取組みについて、県域団体として推進業務を行いました。

- ・ 取組主体 10 組織、繁殖雌牛奨励金対象者 50 名、奨励金対象頭数 113 頭

(15) 茨城県エコフィード研修会事業

(受託:茨城県、継続) **収益**

養豚農家等に向けてエコフィード研修会及び製造工場の見学会を開催し、エコフィードに対する理解を深めました。

- ・ 茨城県エコフィード研修会:令和 6 年 11 月 7 日

座学:古河市役所三和庁舎、見学会:(有)太陽産業社、参加者 35 名

3 畜産の理解醸成を図る事業

(1) 畜産振興補助事業

(補助:地方競馬全国協会、継続)(単独:継続) **公益**

畜産経営の安定と技術の向上に係る支援、及び消費者等に対する畜産への理解醸成のため、畜産経営支援対策等の各種事業を効率的かつ効果的に推進しました。

ア 畜産経営の支援体制の強化を図る事業

畜産経営体の経営改善を図るため、総括畜産コンサルタント・畜産コンサルタント等を中心に、経営診断や各種支援指導、種畜の能力向上や生産基盤の拡充、及び担い手育成を図るための経営支援やセミナーを実施するとともに、ホームページ等による情報提供を実施しました。

イ 地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資するための事業

県産畜産物の素材提供等による食育活動支援、銘柄畜産物のブランドアップ活動、家畜畜産物の衛生指導活動など、一般消費者への普及等畜産物の安全かつ安定供給に資する事業を実施しました。

ウ 馬事普及啓発の推進体制の強化を図る事業

本県の畜産物と地方競馬の普及啓発を図るため馬事振興を実施しました。

- ・ 船橋競馬場(冠レース:常陸牛、ローズポーク、奥久慈しゃも、茨ちち)
- ・ 大井競馬場(地方競馬ミルクウィーク:本県産乳製品の PR)
- ・ 家畜に係る伝統行事 日枝神社流鏝馬祭の支援(土浦市:日枝神社流鏝馬保存会)

(2) 畜産ふれあい体験事業

(単独、継続) **公益**

一般消費者等を対象に畜産への知識の普及啓発を図るため、卵を使った「子供料理教室」を実施し、消費者への理解醸成と食育活動を支援しました。

- ・ 令和 7 年 2 月 14 日、全農いばらき ポケットファームどきどき、参加者 42 名

Ⅱ 家畜・畜産物の衛生対策を支援する事業

1 防疫体制の整備を図る事業

(1) 自衛防疫強化総合対策事業

(補助:茨城県、継続)(単独:継続) **公益**

自衛防疫を円滑に実施するため、地域単位での自衛防疫推進会議を開催するとともに、家畜衛生に関する資料作成、情報提供による衛生知識の普及向上等を図りました。

ア 自衛防疫推進会議

場 所	期 日	参加者	期 日	参加者
水戸市	令和 6 年 5 月 10 日	33 名	令和 7 年 3 月 4 日	28 名
鹿行地域	令和 6 年 5 月 9 日(リモート)	16 名	令和 7 年 3 月 7 日(リモート)	15 名
土浦市	令和 6 年 5 月 10 日	18 名	令和 7 年 3 月 7 日	24 名
筑西市	令和 6 年 5 月 23 日	31 名	令和 7 年 3 月 5 日	22 名

イ 広報事業

衛生知識の普及と病原体侵入リスク低減を図るため、印刷物等を作成し配布しました。

- ・「関係者以外立入禁止」看板(反射材):554 枚

(2)地域自衛防疫推進事業

(単独:継続)公益

各市町村衛生指導協会等における、家畜伝染病等の組織的な対応が必要な疾病の発生防止対策の取組みに対する助成金を交付し、地域自衛防疫体制の一層の強化・充実を図りました。

- ・ 実施市町村:42 市町村衛生指導協会

(3)家畜防疫互助基金支援事業

(受託:中央畜産会、継続)公益

ア 豚熱、口蹄疫、アフリカ豚熱、牛疫、牛肺疫の発生による畜産経営への影響緩和のため、生産者への事業加入促進を図りました。また、事業参加者に対し、飼養衛生管理基準の遵守の徹底を促しました。

- ・ 家畜防疫互助事業加入状況

畜種	加入戸数	加入頭数
乳用牛	147 戸	19,895 頭
肉用牛	280 戸	46,304 頭
豚	99 戸	292,541 頭
合 計		358,740 頭

イ 互助金交付認定委員会を開催し、互助金交付単価の認定及び導入計画の認定を行いました。

- ・ 令和 6 年 12 月 26 日、畜産会館会議室(水戸市)、出席者 6 名

(4)獣医師養成確保修学資金給付事業

(補助:農林水産省、継続)公益

獣医学を専攻し産業動物獣医師を志す学生1名に対し、修学資金の給付を行いました。

(5)馬飼養衛生管理特別対策事業

(補助:中央畜産会、継続)収益

馬飼養衛生管理体制の整備を図るため、委員会の開催や、馬飼養者等を対象に講習会を開催し、乗用馬等の獣医療実態調査を行いました。

ア 地域馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催

- ・ 令和 6 年 12 月 10 日、JA 水郷つくば本店(土浦市)、出席者 9 名

イ 馬飼養衛生管理技術講習会

- ・ 令和 6 年 12 月 10 日、JA 水郷つくば本店、参加者 41 名

ウ 地域馬獣医療実態調査

馬飼養者に対して、衛生管理の概念や飼養馬の疾病予防に関する認知度及び獣医療の実態について調査を行いました。

- ・ 調査戸数: 173 戸
- ・ 回答戸数: 82 戸

(6) 家畜防疫・衛生指導対策事業

(補助: 中央畜産会、継続) 収益

ア 地域自衛防疫推進

口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等の発生時に、迅速かつ的確な防疫措置が講じられるよう、農場での初動防疫体制の充実・強化を図るため、防疫演習を実施しました。

- ・ 防疫演習の実施

地区	月日	場所	参加者
県北	令和 6 年 9 月 20 日	大子町リフレッシュセンター(大子町)	33 名
県央	令和 6 年 9 月 5 日	内原ヘルスパーク体育館(水戸市)	46 名
鹿行	令和 6 年 9 月 25 日	鉾田市合同庁舎会議室(鉾田市)	51 名
県南	令和 6 年 8 月 1 日	県南家畜保健衛生所(土浦市)	31 名
県西	令和 6 年 10 月 2 日	明野コミュニティセンター(筑西市)	23 名
県西	令和 6 年 10 月 16 日	総合運動公園ラスカ(桜川市)	45 名
全域	令和 6 年 10 月～	演習動画配信	—

イ 地域疾病対策

県内の酪農家、肉用牛繁殖農家における牛伝染性リンパ腫の清浄化に向けて、防疫支援検討会を開催し、モデル農場における清浄化対策の検討及び実証調査等を行いました。

- ・ モデル実証農場: 14 戸
- ・ とう汰頭数: 8 頭

ウ 地域農場 HACCP 認証支援事業

農場 HACCP 認証構築指導を受ける 2 農場、認証取得後のフォローアップ指導を受ける 7 農場に対し、指導技術者の指導料等の助成を行いました。

家畜飼養農場に対し、農場 HACCP 認証の取得を推進するための周知活動として、当協会 HP に「指導員養成研修会の開催のお知らせ」、「農場 HACCP 認証基準の一部改正」、「農場 HACCP 情報(動画)」を掲載しました。

(7) 地域養豚生産衛生向上対策支援事業

(補助: 中央畜産会、継続) 収益

養豚農場で生産性を著しく阻害する疾病(PRRS)の発生低減対策を立案し、それに基づいた衛生対策を行い、疾病の発生を低減し、まん延防止に取り組みました。

- ・ 地域生産対策会議: 令和 6 年 5 月 24 日、県南家畜保健衛生所(土浦市)、参加者 18 名
- ・ 地域生産対策会議: 令和 7 年 3 月 13 日、県北家畜保健衛生所(水戸市)、参加者 17 名

- ・ 指定獣医師による PRRS まん延防止衛生指導:農家指導延べ 82 回

2 家畜の疾病予防対策を推進する事業

(1)家畜生産農場衛生対策事業

(補助:農林水産省、継続) 公益

ア 疾病清浄化支援対策

(ア)全国流行疾病対策

- ・ ヨーネ病対策

牛ヨーネ病のまん延防止並びに早期清浄化のために、飼養者が自主的に行う検査に助成しました。検査戸数:4 戸(1,508 頭)

- ・ 牛伝染性リンパ腫対策

牛伝染性リンパ腫の感染拡大を防止するため、発生農場での重点的な抗体検査、高リスク牛のとう汰及び共同放牧場の吸血昆虫の駆除対策等の経費に助成しました。

とう汰戸数:8 戸(13 頭)、検査戸数:26 戸(262 頭)、

吸血昆虫の駆除対策数:1 牧場

- ・ 牛ウイルス性下痢(BVD)対策

BVDの清浄化を推進するため、発生農場等の重点的な検査、持続感染牛のとう汰に助成しました。持続感染牛のとう汰戸数:2 戸(3 頭)、検査戸数 14 戸(4,017 頭)

(イ)地域生産性向上衛生対策

- ・ 牛マイコプラズマ乳房炎対策

地域で課題となる生産性に影響を及ぼす牛マイコプラズマ性乳房炎による損耗軽減に向け、感染牛のとう汰に助成しました。とう汰戸数:1 戸(3 頭)

イ 農場飼養衛生管理強化・疾病流行防止支援対策

飼養衛生管理の向上のために行う指定獣医師等による衛生指導の経費と、吸血昆虫が媒介して異常産を起こすアカバネ病等の予防のためのワクチン接種に助成しました。

- ・ 調査指導:牛飼養農家 76 戸、豚飼養農家 40 戸、鶏飼養農家 3 戸
- ・ 予防接種助成:アカバネ病ワクチン:2,850 頭、牛異常産 3 種混合ワクチン:1,805 頭

ウ 予防接種事故対策事業

予防接種が原因での家畜事故はありませんでした。

(2)伝染性疾病発生予防事業

(単独、継続) 公益

ア 豚のオーエスキー病と牛の伝染病発生予防のため、アカバネ病、異常産 3 種混合、イバラキ病、牛伝染性鼻気管炎 5 種混合ワクチン、牛クロストリジウム感染症 5 種混合トキシノイドの接種を実施しました。

- ・ 豚オーエスキー病:2,382 頭
- ・ アカバネ病:2,858 頭
- ・ 異常産 3 種混合:1,805 頭
- ・ イバラキ病:257 頭
- ・ 牛伝染性鼻気管炎 5 種混合:620 頭
- ・ 牛クロストリジウム感染症 5 種混合:364 頭

イ 特定家畜伝染病(口蹄疫、豚熱及び高病原性鳥インフルエンザ等)防疫措置に協力する団体等の怪我に対応するため傷害保険に加入しました。

(3)馬伝染性疾病防疫推進対策事業 (補助:中央畜産会、継続) 収益

乗用馬等に対する馬インフルエンザ等の予防接種を行いました。

- ・ 馬インフルエンザ:407 頭
- ・ 馬鼻肺炎:3 頭

(4)育成馬等予防接種推進事業 (補助:中央畜産会、継続) 収益

馬生産育成地において、軽種馬の安定的生産を図るため、育成馬等の予防接種に要する経費を助成しました。

- ・ 育成馬の予防接種

対 象	予 防 接 種 名	頭 数
1 歳馬	3 種混合補強接種	5 頭
	馬インフルエンザ補強接種	40 頭
2 歳馬	3 種混合補強接種	113 頭
	馬インフルエンザ補強接種	393 頭
	2 種混合基礎接種	114 頭

(5)経口ワクチン散布技術効率化事業 (受託:茨城県 CSF 感染拡大防止対策協議会、継続) 収益

豚熱ウイルスの野生イノシシへの感染拡大を防止するため、豚熱陽性個体が確認された 18 市町村、渡良瀬遊水地から利根川沿いの河川敷の 4 市町の野生イノシシ生息圏に、茨城県猟友会等の関係機関の協力のもと豚熱経口ワクチンを散布しました。

- ・ 前期(4～5 月):328 か所、6,560 個散布
- ・ 後期(9～10 月):319 か所、6,738 個散布

(6)豚熱ワクチン接種事業 (単独、継続) 収益

知事認定獣医師による、ワクチン接種に取り組みました。

- ・ 指定獣医師 :6 名
- ・ ワクチン接種農場:19 農場、84,330 頭(令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月)

3 畜産物の安全性を確保する事業

(1)牛疾病検査円滑化推進対策事業 (補助:農林水産省、継続) 公益

(死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業)

特定症状や歩行困難、起立不能等を呈しており、その症状からBSEを否定できない牛などを検査対象とし、BSE検査および同検査のための採材等に関して助成しました。

ア 死亡牛検査促進対策

死亡牛について、獣医師がBSE検査の要否を判断するに当たり必要となる情報の提供及び死亡牛の発生場所からBSE検査のための採材施設に搬入されるまでの間の輸送経費を助成しました。

イ 死亡牛検査支援対策

- BSE検査費を農家に助成しました。
- ・ BSE検査頭数:2 頭

Ⅲ 家畜・畜産物の価格補償を行う事業

1 子牛等の家畜販売に係る価格補償を行う事業

(1)肉用子牛生産者補給金交付事業 (補助:農畜産業振興機構 継続) 公益
(助成:茨城県、継続)(積立金:生産者、継続)

ア 補給交付金交付

肉用子牛の平均売買価格が保証基準価格を下回ったため、対象子牛に対して生産者補給金を交付しました。

- ・ 生産者補給金交付実績

時 期	種 別	頭 数	金 額
令和 5 年度第 4 四半期 (令和 6 年 1 月～3 月)	その他の 肉専用種	1 頭	90,510 円
令和 6 年度第 1 四半期 (令和 6 年 4 月～6 月)	黒毛和種	1,032 頭	23,323,200 円
令和 6 年度第 2 四半期 (令和 6 年 7 月～9 月)	黒毛和種	1,022 頭	66,532,200 円
令和 6 年度第 3 四半期 (令和 6 年 10 月～12 月)	黒毛和種	1,132 頭	47,657,200 円
合 計			137,603,110 円

イ 生産者積立造成

- ・ 契約生産者戸数:336 戸 令和 6 年 1 月 1 日から令和 6 年 12 月 31 日まで

種 別	頭数	生産者積立金			
		機構(1/2)	茨城県(1/4)	生産者(1/4)	合計
黒毛和種	4,940 頭	3,952,000 円	1,976,000 円	1,976,000 円	7,904,000 円
褐毛和種	1 頭	3,000 円	1,500 円	1,500 円	6,000 円
その他の肉専用種	8 頭	75,200 円	37,600 円	37,600 円	150,400 円
乳用種	1,449 頭	4,926,600 円	2,463,300 円	2,463,300 円	9,853,200 円
交雑種	3,871 頭	6,193,600 円	3,096,800 円	3,096,800 円	12,387,200 円
合 計	10,269 頭	15,150,400 円	7,575,200 円	7,575,200 円	30,300,800 円

(2) 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業 (補助:農畜産業振興機構、継続) 公益

補給金制度の適正な実施を図るための調査・指導、肉用子牛取引情報の収集をすると共に、協会の運営体制の強化等を図りました。

ア 肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業

肉用子牛生産者補給金制度に係る事業執行を的確に実施するため、統一電算システムを利用して肉用子牛に係る一連の事務と、家畜市場における肉用子牛の取引情報の収集と報告並びに事務委託先・契約生産者との事務手続き等についての点検、調査及び指導を実施し、業務の的確で迅速な処理体制を整備強化しました。

イ 指定協会運営体制支援事業

肉用子牛生産者補給金制度を円滑に推進するため、協会の運営体制の強化を図りました。

(3) 肉用子牛生産者補給金交付事業事務 (単独、継続) 公益

肉用子牛生産者補給金交付事業を実施するための事務を行いました。

(4) 和子牛生産者臨時経営支援事業 (補助:農畜産業振興機構、継続) 収益

和子牛の平均価格が発動基準価格を下回ったため、支援交付金を交付しました。

- ・ 交付実績(参加者戸数:217 戸)

時 期	種 別	頭 数	金 額
令和 5 年度第 4 四半期 (令和 6 年 1 月～3 月)	黒毛和種	539 頭	11,858,000 円

(5) 優良和子牛生産推進緊急支援事業 (補助:農畜産業振興機構、新規) 収益

和子牛の平均価格が発動基準価格を下回ったため、奨励金を交付しました。

- ・ 交付実績(参加者戸数:214 戸)

時 期	種 別	頭 数	金 額
令和 6 年度第 1 四半期 (令和 6 年 4 月～6 月)	黒毛和種	683 頭	20,490,000 円
令和 6 年度第 2 四半期 (令和 6 年 7 月～9 月)	黒毛和種	609 頭	18,270,000 円
令和 6 年度第 3 四半期 (令和 6 年 10 月～12 月)	黒毛和種	710 頭	21,300,000 円
合 計			60,060,000 円

2 枝肉等の畜産物に係る価格補償を行う事業

(1) 肉用牛肥育経営安定交付金制度 (受託:農畜産業振興機構、継続) 公益

肥育牛の枝肉価格及び素畜価格の変動により肥育牛 1 頭当たりの粗収益(関東ブロック平均)が

生産費(茨城県平均)を下回った場合、その差額の9割を交付金として支払いました。

肉用牛肥育経営安定交付金制度:契約生産者戸数 149 戸

- ・ 肥育牛個体登録状況 令和6年4月～令和7年3月

種 別	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	合 計
頭 数	14,997 頭	6,868 頭	3,595 頭	25,460 頭

- ・ 交付状況(交付単価) (単位:円)

	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種	備 考
R6.1 販売分	62,102.7	—	15,795.9	精算払のみ
R6.2 販売分	71,235.0	—	18,615.6	
R6.3 販売分	89,271.0	—	35,480.7	
R6.4 販売分	62,715.6	—	19,021.5	
R6.5 販売分	100,600.2	—	34,847.1	
R6.6 販売分	131,706.9	23,265.9	41,036.4	
R6.7 販売分	130,743.0	38,994.3	49,389.3	
R6.8 販売分	157,900.5	3,827.7	53,922.6	
R6.9 販売分	120,458.7	5,550.3	52,113.6	
R6.10 販売分	102,124.8	3,477.6	42,574.5	
R6.11 販売分	15,039.9	16,210.8	39,900.6	
R6.12 販売分	—	—	40,308.3	
R7 .1 販売分	12,575.0	—	25,234.4	R7年3月概算払済 (R7年5月精算払予定)

- ・ 交付頭数、金額

時 期	種 別	頭 数	金 額
令和6年1月期(精算払)～ 令和7年1月期(概算払) (月毎交付)	肉専用種	13,954 頭	1,215,938,233 円
	交 雑 種	2,660 頭	41,101,907 円
	乳 用 種	3,903 頭	142,404,985 円
合 計		20,517 頭	1,399,445,125 円

(2)肉用牛肥育経営安定交付金制度業務 (受託:農畜産業振興機構、継続) 公益

交付金の交付を円滑に行うため、契約者や事務委託先などの指導や必要な事務処理を行いました。

(3)肉用牛肥育経営安定交付金制度事務 (単独、継続) 公益

肉用牛肥育経営安定交付金制度を実施するための事務を行いました。

(4)肉豚経営安定交付金制度申請等事務

(単独、継続)収益

肉豚生産者の依頼を受け、肉豚経営安定交付金制度に係る申請事務等を行いました。

- ・ 契約生産者戸数 27 戸、契約頭数 81,038 頭